

脊椎について

背骨には高度で重要な役割があります。

- ①体を支える支柱であること。
- ②脳から続く脊髄神経の容れ物としての役割。
- ③上記を果たしながら可動性を持つこと(前屈み、横ひねり動作)。

主に最初の 2 つの役割が日常生活の快適性に大きく関わっています。例えば、脊椎圧迫骨折は高齢化に伴いよくある骨折ですが、程度がひどくてうまく骨がくっつかない場合は支持性が損なわれ腰痛、背部痛の原因になります。今まで何箇所も骨折してしまい、かなり前屈みになってしまった(変形が高度)場合などは支持性に加えて脊髄神経の通り道が狭くなり、脊柱管狭窄症(休み休みでないと歩けない。足が痺れていたり、重くなったり、感覚がおかしくなったりする。) となります。

脊椎内視鏡手術について

従来の脊椎手術は大きな創から中の筋肉を剥がし、骨を削る必要があったため術後に強い痛みがありました。また、骨を削ることにより体重を支えるための支持性が損なわれてしまうことが問題でした。内視鏡手術は 1cm の創から内視鏡を用いて病変部位にアプローチすることができるため、術後の痛みが劇的に軽減され、また正常組織を温存できます。



脊椎内視鏡手術は高度な技術を要しますが、椎間板ヘルニア(頸椎・腰椎)、脊柱管狭窄の除圧でも 1 箇所の場合は良い適応です。上記疾患の場合は術翌日に退院できることもあります。滑り症で固定術が必要な場合も変形の程度がひどくなく、1 箇所であれば内視鏡下に固定術を行います。

低侵襲手術 (脊椎前方手術) について

近年高齢化により広範囲にわたり背骨の変形が高度である場合が増えています。背骨の変形が高度であると、①②の機能が損なわれてしまいます。手術で治す場合、従来のやり方は後方から大きく切り、脊髄を避けて慎重にやりますが、出血が多く時間もかかり体にかかる負担が大きいため高齢者には手術ができないというジレンマがありました。低侵襲手術 (脊椎前方手術)は開創機

や手術手技の進歩により数センチの創から行い組織をほとんど傷つけないため、出血がほぼなく大きなケージを挿入できるため曲がった背骨を矯正しやすいメリットがあります。日本に導入されてからまだ 10 年程の方法で、認定された施設のみで実施可能な術式です。

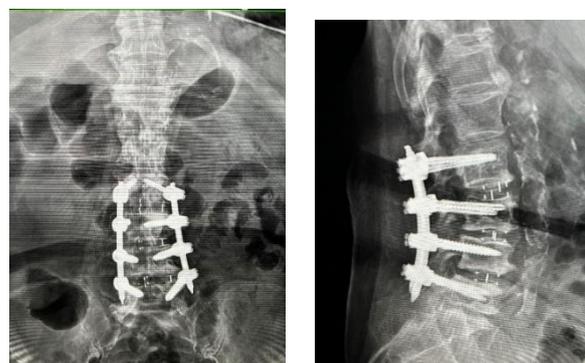
【術前レントゲン】



正面

側面

【術後レントゲン】



正面

側面

久米川病院では脊椎診療、および脊椎手術(内視鏡手術、低侵襲手術 (脊椎前方手術)を含む)に力を入れて参ります。腰が痛い、足が痺れて力が入りにくい、休み休みでないと歩けないなどの症状がある方は是非一度受診されてみたらいかがでしょうか。

久米川病院	2024 年度 (10月現在)	2023 年度	2022 年度	2021 年度
全手術件数	208	292	178	85
脊椎手術件数	82	100	56	0

阿部 一雅 医局長【常勤】

外来日：月・金・土曜日 午前

診療科：整形外科（膝・股関節疾患、脊椎脊髄疾患、一般整形外科）

所属学会：日本整形外科学会、日本人工関節学会、日本股関節学会
日本脊椎脊髄病学会

認定資格：日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、
難病指定医

